

文学的文章を読もう (読むこと③)

年 組 番 氏名

◇ 村田さんのクラスでは、新美 南吉(にいみなんきち)の作品を読み合い、その作品のよさを紹介する活動を計画しています。村田さんのグループは『あめだま』という作品についてクラスのみんなに伝えることにしました。

春のあたたかい日のこと、わたし舟にふたりの小さなこどもをつれた女の旅人ののりしました。舟が出ようとすると、「おおい、ちよつとまってくれ。」

と、どてのむこうから手をふりながら、さむらいがひとり走ってきて、舟に飛びこみました。舟は出ました。

さむらいは舟のまん中にどっかりすわっていました。ぽかぽかあたたかいので、そのうちにいねむりははじめました。

黒いひげをはやして、強そうなさむらいが、こっくりこっくりするので、こどもたちはおかしくて、ふふふとわらいました。おかあさんは口に指をあてて、「だまっておいで。」

いいました。さむらいがおこってはたいへんだからです。こどもたちはだまりました。

しばらくするとひとりのこどもが、「かあちゃん、あめだまちようだい。」と手をさしだしました。

すると、もうひとりのこどもも、「かあちゃん、あたしにも。」といいました。

おかあさんはふところから、紙のふくろをとりました。ところが、あめだまはもう一つしかありませんでした。

「あたしにちようだい。」
「あたしにちようだい。」

ふたりのこどもは、両方からせがみました。あめだまは一つしかないのです、おかあさんはこまってしまいました。

「いい子たちだからまっておいで。むこ

うへついたら買ってあげるからね。」

といってきかせても、こどもたちは、ちようだいよ才、ちようだいよ才、とだだをこねました。

いねむりをしていたはずのさむらいは、ぱっちり目をあけて、こどもたちがせがむのを見ていました。

おかあさんはおどろきました。いねむりをじやまされたので、このおさむらいはおこっているのにちがいない、と思いました。「おとなしくしておいで。」

と、おかあさんはこどもたちをなだめました。けれどもこどもたちはききません。するとさむらいが、すらりとかたなをぬいて、おかあさんとこどもたちのまえにやってきました。

おかあさんはまっさおになって、こどもたちをかばいました。いねむりのじやまをしたこどもたちを、さむらいがア

と思ったのです。「あめだまをだせ。」とさむらいはいいました。

おかあさんはおそろおそろあめだまをさしだしました。

さむらいはそれを舟のへりにのせ、かたなでばちんと二つにわりました。

そして「そおれ。」とふたりのこどもにイ

① それから、またもとのところに帰って、こっくりこっくりいねむりはじめました。

【『あめだま』新美南吉】

問一 文中の「ア」「イ」には、それぞれどのような言葉が入るでしょう。正しいと思う組み合わせを一つ選びましょう。

- () ア しっかりつける イ ほめてやりました
- () ア きりころす イ わけてやりました
- () ア なだめる イ なげつけました
- () ア ほめる イ 買ってやりました

問二 村田さんたちは、次のように発表の原こうを作っています。次の【原こうの案】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【原こうの案】

この話のおもしろさは、二つ考えられます。
一つ目は、母親のきん張感が高まっていく様子から、最後の場面で一気にどんでん返しがあるとあります。
二つ目は、刀を持ったこわそうなおさむらいが、ゆかいにえがかれているところです。このゆかいなえがかれ方が、新美南吉らしいほのぼのとした作品のふんい気につながっていると感じました。
・・・

(1) 本文中の①——は、原こうの中の「一つ目」「二つ目」のどちらのおもしろさにかかわりがありますか。あとの□に書きましょう。

①それから、またもとのところに帰って、こっくりこっくりねむりはじめました。

□ つ目のおもしろさ

(2) 新美南吉は、四年生で学習した『ごんぎつね』の作者でもあるので、読み比べてみました。そして原こうに次の文も入れようと思いました。次の文は、「一つ目」「二つ目」のどちらに入りますか。あとの□に書きましょう。

『ごんぎつね』の中で、最後にごんがうなずいた場面と似ています。

□ つ目

文学的文章を読もう（読むこと③）

【解答】

問一

ア きりころす

イ

わけてやりました

の組み合わせ

■解説

アの前におかあさんが「まっさおになって、こどもたちをかばいました」と書いてあります。「まっさお」になって「かばう」という動作は、こどもに危険がせまっているからに他なりません。また、その直前で「さむらいが、すらりとかたなをぬいて」とあることから、考えられる危険は、「きりころす」されることでしょう。

イ は、「そあれ。」という言葉は、「ほめてやる」、「なげつけ」るときのことばとしてはふさわしくないものです。「買ってやるのは舟の上なので無理です。したがって、こわいさむらいが、おそろしいかたなでしてやったことはきちんと二つに「わけてや」った、ということでしょう。

問二 (1)

二 つ目のおもしろさ

■解説

おかあさんはじめ、周囲のひとたちはおさむらいをこわく感じていたことでしょう。このおさむらいが、かたなをすらりと抜き、ふたりにあめをわけてつけたあと、つまり周囲をふるえあがらせたあと、またこっくりこっくりねむりはじめた様子は、間が抜けているでしょう。このゆかいさを取り上げています。

(2)

一 つ目

■解説

『あめだま』は、最後の最後で緊張がとけ、和やかにお話が終わります。一方『ごんぎつね』は、ごんを鉄砲で撃った兵十が、くりなどをもってきたのがごんだと最後の最後に知る、というなんとも切ない終末です。どちらも、最後に読者をゆさぶる大きなどんでん返しが仕組まれているのです。一方は和やかな終わり方でもう一方は悲しい結末といううちがいがあります。最後の場面で一気にどんでん返しがくるという点では二つのお話は似ていると言えそうです。